## 絶対参照と相対参照

今回は相対参照と絶対参照についての説明です。はじめての方にはちょっと わかりづらいかもしれませんが、慣れれば大丈夫です。^^

セル参照には、「相対参照」「絶対参照」「複合参照」という3種類があります。 これらは、<u>数式を他のセルにコピーしたときに、セル参照のセル番地を変更す</u> るかどうかを指定するものです。

相対参照: 数式をコピーしたとき、コピー先でそこのセル範囲に合わせて行番号

列番号が変化する参照の仕方。

絶 対 参 照: 行・列ともに固定させる参照方法。

複合参照: 行と列の一方を変化、他方を固定にする複合型の参照方法。

絶対行参照: 複合参照の中でも、行だけを固定する方法。 絶対列参照: 複合参照の中でも、列だけを固定する方法。

行番号、列番号を固定させるには、セル番地の行番号、列番号の前に「\$」(ドル記号)を付けます。「\$」は、手入力することも出来ますが、セル番地を入力 状態にして「F4」キーを押すと簡単に入力出来ます。

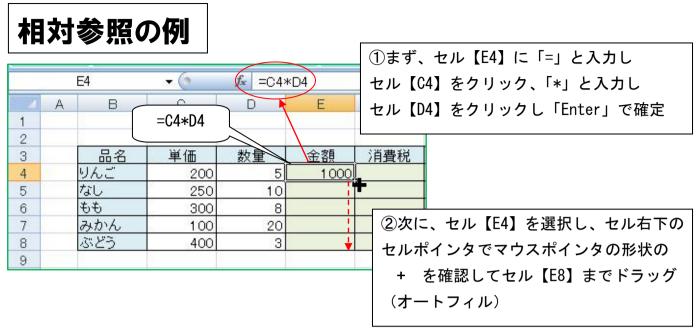
「F4」キーを押すごとに、

\$A\$1 (絶対参照) → A\$1 (絶対行参照) → \$A1 (絶対列参照) → A1 (相対参照) の順で変化します。

では、実際の例で見てみましょう。

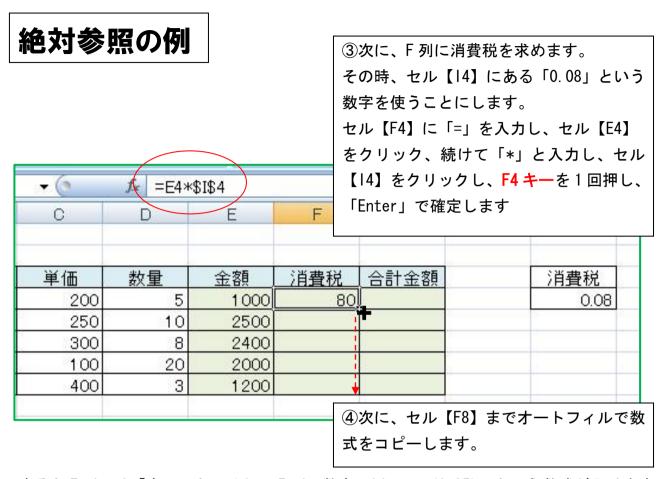
D21		<b>-</b> ()	$f_x$						
2	Α	В	С	D	Е	F	G	Н	I
1									
2									
3		品名	単価	数量	金額	消費税	合計金額		消費税
4		りんご	200	5					0.08
5		なし	250	10		2			
6		もも	300	8			9		
7		みかん	100	20					
8		ぶどう	400	3					
9						Ti .	17		

上の表で、「金額」「消費税」「合計金額」に計算式を入れる場合を考えてみましょう。



すると、下図のように E 列は「自セルと同じ行の C 列×自セルと同じ行の D 列」という数式になります。(下図は数式表示にしたものです。)

С	D	Е	
単価	数量	金額	
200	5	=C4*D4	
250	10	=C5*D5	
300	8	=C6*D6	
100	20	=C7*D7	
400	3	=C8*D8	



すると F 列には「自セルと同じ行の E 列の数字×14 セル (0.05)」という数式が入ります。 もし、消費税の税率が変わったりした場合、14 セルの数字を直すだけで、表中の消費税の変 更が可能になります。



このように、行や列が変わると、数式に使われる行や列も連動して変わっていくのを 相対参照といい、

「\$1\$4」のように行や列が変わっても、連動して変わらないものを**絶対参照**といいます。 G 列の「合計金額」は セル【G4】に「=」と入力し、セル【E4】をクリックし、 「+」と入力し、セル【F4】をクリック、「Enter」で確定します。

## それをセル【G8】までオートフィルで数式をコピーしてください。

H25		H25	₹ (3	$f_{x}$					
2	Α	В	С	D	Е	E	G	H	I
1			h						
2					la la	, a			
3		品名	単価	数量	金額	消費税	合計金額		消費稅
4		りんご	200	5	1000	80	1080		0.08
5		なし	250	10	2500	200	2700		
6		もも	300	8	2400	192	2592		
7		みかん	100	20	2000	160	2160		
8		ぶどう	400	3	1200	96	1296		
9					i i				
10									

こんなふうに出来上がりましたか?